



# 心に生きると書いて“性”

## 大切なこの問題をエイズを含めて考えてみませんか？

県PTAを代表して、平成21年3月、福島県エイズ対策推進協議会に参加しました。

「福島県におけるエイズ・性感染症の現状について」県保健福祉部医療看護課からの報告と県立医大の先生からのお話があり、HIV感染者、AIDS患者とともに日本は増加傾向にあり、福島県も同じく増加していて、特に福島では異性間性的接触による感染経路や若者への感染が大変懸念されるとのことでした。

性感染症は、若干減少の方向にありますが、依然として10代の感染者も多く、未熟な中で10代の性体験は問題を抱えています。

思春期の子どもたちに自分の行動を律する力「自己抑制力」を身に付けさせることは親の大きな役目でもあり、子どもの将来にとっても重要です。

また、エイズに関しては、増加しているにもかかわらず、話題に上がることも少なくなり、いつしか危機感が薄れているのではないかと懸念されます。エイズは感染してしまうと、現在、発症を抑える薬はありませんが、治すことはできません。

一度の過ちが一生涯を左右します。子どもたちの輝く未来を守るためにも、親として、社会人として、この問題に関心を寄せてください。

右の資料は、昨年、福島市立岳陽中学校で行った教養講座後、広報紙に掲載した内容です。ぜひ、皆様の学校でも積極的に取り組んでください。

なお、この件に関するご質問は、お気軽に氏家までご連絡ください。

(TEL/FAX 024-531-6189)

前母親代表理事 氏家京子

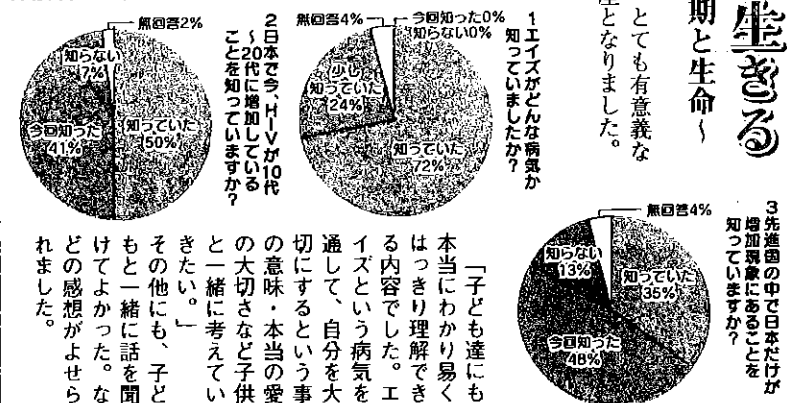
### エイズ時代に生きる

#### 親と子で考える思春期と生命

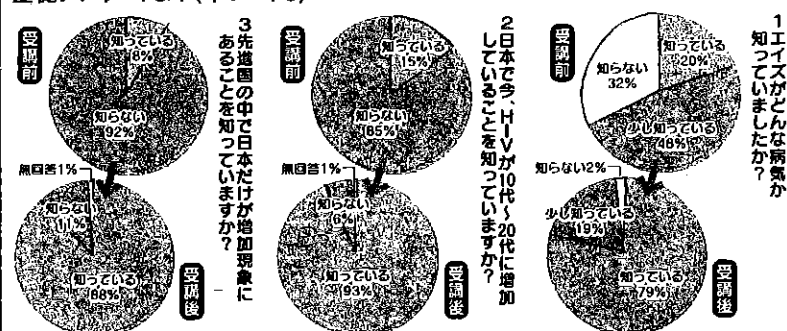
九月十六日、荒井敦子先生をお迎えして教養講座が行われました。今回は、エイズ問題が日本で十代の若者にも大変懸念されていることから、全校生徒とPTAが共に受講することになりました。

荒井先生のお話しは、エイズに対して正しい理解ができただけでなく、思春期の大切さや自己抑制力を身につけることの必要性なども語っていただきました。また、保護者向けの時間は、コミックやケイタイサイト、図書室にある問題の本のことも、今、子供たちがおかれている環境に対しても深く考えさせられる内容でした。親にとっても子供に

保護者アンケートより 回答数 44名



生徒アンケートより(中1〜中3) 受講前 425名 受講後 422名



#### — 女子 —

- ・エイズは名前を知っている程度で具体的にはよくわからなくて、自分には関係ないことだと思っていた。でも、誰にでもそういう可能性がある事を知って、恋愛についても慎重に考えるべきだと分かりました。
- ・自分の夢を実現させるために、自己抑制をきちんと身につけないといけないと思った。
- ・夢を持って、自分を大切にする事が大切だとよく分かりました。

#### — 男子 —

- ・エイズが10代〜20代に増加しているなんてことや、先進国で日本だけが増加しているなんて、まったく知りませんでした。
- ・やっていいこと、やって悪いことをしっかり区別をつけること。
- ・これからの自分の生き方を深く考えさせられる講習だった。

福島市立岳陽中学校広報紙「しゃくなげ」より